



同 志 社

歴 史 散 歩

新 潟

高 橋 勝

新潟教会成立と新潟先生の意図

新潟先生は大磯の病床から、新発田の伝道師広津友信に、延々四間に及ぶ書状を送って、北越伝道の将来について語り、深い情愛をもつて励ましておられる。次の詩歌は先生の当時の心情をよく示している。

いしがねも透れかして一筋に
射る矢にこもる大丈夫の意地

北越伝道策贈某氏

ただに月下能越を併すのみならず

八州を跋渉するは是れ吾が分

壯図却つて促す男児の涙

滴々そそいで縷々の文をなす

先生の伝道心は火のように燃え、色分けして書いた日本地図には神の国建設の大方針が建てられていたという。そして北陸地方伝道の一拠点として新潟に早くから深い関心を示されていた。

しかし新潟には先生の北越伝道開始以前に神の御計画が既になされていた。すなわち、安政六年日米条約が結ばれると、新潟は開港場の一つに指定された。そして新潟駐在米国領事ラウダアの岳父ブラウンが県当局からの依頼で英語学校教師として着任した。彼は十

カ月間の在任中、日曜日ごとに聖書を教えたために、知事命令でその職を失い横浜に去った。彼は横浜で植村正久始め多くの青年を育成したが、その門下生の一人、押川方義をスコットランド人の医師パーム宣教師の協力者として明治八年に新潟に送った。彼らは熱心に医療と伝道に励んだが十六年新潟を去って、パームは横浜に、押川は仙台に赴いた。押川らがなぜ新潟を去ったか正確な理由はわからないが、二三推測すれば、(1)明治十三年の大震災にあい苦心して築いた病院及び伝道所の施設を類焼したこと (2)優れた西洋医学をもって市民から信頼を受けながらも異教的な風土における迫害にあった (3)仏教地盤における福音の宣教は容易でなかったことなどによる。以上のような状況から新潟の伝道をアメリカンボード最初の宣教師O・H・ギユリツク夫妻、R・H・デビス夫妻らに引継いだ。

そして翌明治十七年の夏には、大阪の沢山保羅が来港し、約二カ月間の応援伝道をして、大きな成果を上げた。沢山は大阪より成瀬仁蔵を送った。成瀬は明治十九年十月新潟組合教会を設立し、第一代牧師となった。その後アメリカンボードは、スカッター、オール

ズ、ペットレー、ニューエル、カブ、カルテス、ブラウン、マツコールなどの有為な宣教師を送り、多い時には十数名の宣教師が定住し、盛んに伝道した。明治二十年には一年間で、受洗者八十二名を数えた程であった。しかし必ずしも安易な伝道ではなかった。成瀬は一年半ばかり伝道と教育に励んだが、辞任して渡米した。その後、新発田より広津友信が後を受け継ぎ、教勢の発展につとめた。

当時新潟女学校、北越学館などの複雑な諸勢力があったので、とかく教会内部にまで問題が及び、分派的な空気を生み、紛争を起したようで、広津も一年余で辞任した。その頃、堀貞一は教会視察の名目で来港していたが、新島先生の北越伝道策贈某氏の詩に感じて遂に自ら三代目牧師として着任した。彼は熱心に伝道し、明治二十四年十一月に十八名の受洗者を出したが、そのうちの一人に木村清松があった。以後、直接間接に新島先生の感化指導を受けた同志社人が新潟教会とその周辺において、伝道牧界にあたってゐる。

北越学館と新潟女学校

明治十九年成瀬仁蔵は市内の有力者を説いて協力を求め「新潟女学校を設立し、地方の

有刀者、地主、商家の子女の教育に當った。

また一方新潟の人、阿部欽次郎と村上市の加藤勝弥は新潟英学校を経営していたが、成瀬や宣教師スカッターの勧めに応じて、これを献げ、キリスト教主義「北越学館」として発足せしめ、多くの人材を育成した。教頭として内村鑑三や松村介石、英語教師として同志社二回卒中島末治などを招いたので、郷土の有為な青年達は競ってここに入学した。広範な高等教育をなし英語、数字、漢文に主力を置きながら「普通学全部を教授し、市内の文化向上の源泉をなした」(市史)と言われる。しかし保守反動の波が起り、明治二十五年には県立尋常中学校が設立され、また学館内部においては、教頭と宣教師との折合が良くなかったため、宣教師らは失望して辞任したため、止むなく二十六年三月をもって新潟女学校も、北越学館も廃校せざるを得なかった。教師今泉真幸らは五年後に北越学館再興を期して、同志社神学部その他の学校に入学したが、その志をとげなかった。

後年長田時行が、聖友女学校を造って往年の新潟女学校の女子教育を再興したが、これも適当な後継者を得ず、数年で北越の荒波に

のまれてしまった。

同志社と新潟伝道

組合教会が新潟に伝道を開始して以来、同志社関係者が活発な働きを展開しているが、また、当地方からも多くの人物が輩出している。小出身の桜井鉄二は小学校校長であったが、自宅を教会に献げ、故郷伝道をなし、現在もおおその子息乾一郎が志を継いでいる。五泉から出た木村清松は優れた伝道者として広くその名を知られ、その令弟岩村清四郎は同志社に学び、大森めぐみ教会の創立者である。その他、前神戸教会教師・鈴木浩二、元浪花教会教師・芹野与太郎、本郷教会の田崎健作などの人物を生んでいる。

また中条、長岡、十日町、新発田、燕の各教会には同志社人及びその関係者が代々赴任して北越一体に新島先生の志の一端が生かされている。新潟には大宮季貞、額賀鹿之助、長田時行、杉浦義人、中井佐一郎、新発田に木月難波宣、田中金蔵、燕に佐藤茂見、長岡に菱本与吉郎などの先輩が大いに活動して同志社の精神的な遺産をもちたしている。

(昭和四四年大神・新潟教会教師)